

Web ページ制作におけるデザインイメージの検討支援ツール^{*1}

有賀 妙子^{*2}

同志社女子大学
学芸学部情報メディア学科

渡部 隆志^{*3}

大阪電気通信大学
総合情報学部デジタルゲーム学科

1 はじめに

インターネットの普及に伴い、Web ページは情報提供の手段として定着している。そのような状況の中で、単にユーザとして Web ページを利用するだけでなく、作り手となる場合も多い。オーサリングソフトを使うことで、Web ページの制作は容易になり、文字と画像の静的な要素を中心とした Web ページであれば、特別な技術的知識がなくても作成できる。

Web コンテンツには、伝える内容そのものと、そのデザイン表現の 2 つの側面がある。デザインの専門家ではない人が Web ページを作る場合、伝える内容は吟味しても、デザイン表現に関しては思いつきで行うことがほとんどであろう。オーサリングツールにより、デザイン要素を簡単にページに加えられることも手伝い、デザイン表現のイメージが分散しがちである。

デザイン表現は、Web コンテンツの一面であり、ページが伝える情報の質に大きく影響する。そこで、Web ページのビジュアル表現の検討を手助けするワークシートとして、イメージプロット、スタンダードデザインテーブルを開発した。大学での Web ページ作成演習授業の教材として開発したもの[1]であるが、授業以外の場でも、非デザイナーが Web ページのビジュアルデザインを検討するためのツールとなると考える。

2 Web ページ制作演習教材としての位置づけ

大学では、情報関連科目のみならず、コミュニケーションなど多くの分野の科目でも、Web ページ制作を取り上げている。また、高等学校の普通教科「情報」においても、Web ページを表現メディアとして取り上げる。そこでは、Web サイトの構成やユーザビリティに関して学習するが、デザインの視点からは、「見やすい」といった曖昧な内容に留まり、色彩計画や要素の配置など積極的に Web ページのビジュアル表現を考えるような制作指導はなされていない。その結果、ファンシーなフリー画像が、内容とは無関係に、十分な考察なく貼り付けられているような Web ページが作られてきた。

文章がある情報を伝えるように、Web ページのデザインが伝える情報があり、それがページの情報伝達力を決める大きな要素となる。制作意図に基づいて、情報の構成、配置、色彩などを論理的に組み立てるという情報デザインの観点に立ち、ページのデザインを検討する演習プロセスとその教材を開発した。

演習では、テーマ、目的、対象の決定後、制作するページの性格を明確化するのに、イメージプロットをワークシートとして使う。その後、ページのイメージに沿って情報のデザイン表現を決める。情報の構成や色彩、画像などを思いつきで選ぶのではなく、十分に考察を加えながら制作を進めるため、スタンダードデザインテーブルを手がかりとして使う。

3 イメージプロット

イメージプロット(図 1)は Web ページのイメージを言葉に置き換えて、デザインの方法性を考えるためのツールで、静-動、知-遊の 2 次元平面に、内容からみた Web ページがめざす性格を表現する言葉(漢字熟語)を配置してある。横軸は内容が知識重視であるか遊び重視であるか、縦軸は要素が動的であるか静的であるかの程度を示す。加えて、これらの語の周辺には、それを視覚化する場合の標準的なビジュアル表現をイメージする言葉(カタカナ語)を配置している。イメージを言葉で表現するのは、色彩にも用いられており、言葉の意味と色彩の印象を 2 次元平面上にマップする手法もある[2]。イメージプロットは内容イメージとそれを実現するビジュアル表現のイメージとを言葉を介してマップするものである。

イメージプロット上で、制作する Web ページの内容イメージを表す言葉を選択し、次にビジュアルデザインのイメージを表すカタカナ語を選択する。標準的なビジュアル表現を採るのならば、選択した内

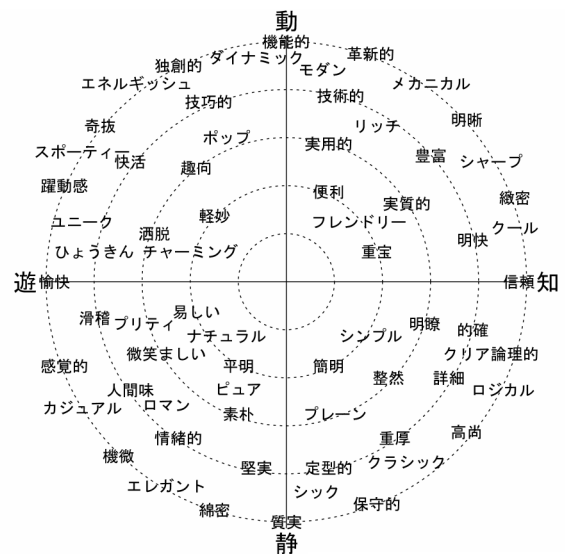


図 1 イメージプロット

^{*1} Tools to assist in designing the image of Web pages

^{*2} ARIGA Taeko, Doshisha Women's College of Liberal Arts, Department of Information and Media

^{*3} WATANABE Takashi, Osaka Electro-Communication University, Department of Digital Games

容イメージ語の周辺の言葉が選ばれるが、ページの目的や対象を念頭に、標準から外れた選択をすることもある。このように言葉を選択し、なぜそうするのかを考えることで、ページのデザイン表現の考察を促すことができる。

イメージプロットに配置した言葉の関係が、実在する Web サイトとどう対応するかを調べた。調査は、Web ページの分野をキーワード(経済、料理など 213 語)として、Yahoo! JAPAN のカテゴリ検索でヒットした先頭 4 ないし 5 の Web サイトを対象に行った(1011 サイト)。複数の実験者が Web サイトを見て、その内容イメージとビジュアル表現のイメージを、イメージプロットに現れる言葉の一覧表から選んだ。同じサイトを対象に、実験者を変え、2003 年と 2004 年に調査をおこなった。内容、ビジュアル表現とも同じ象限内に置かれた言葉が選ばれたサイトが、そうでないサイトに比べて多い(表 1)。また、イメージプロットの象限とは関係なく、内容イメージ語周辺の 4 つのビジュアル表現語に注目し、その語が選択されたサイトの割合は 30%であった。

表 1 実在 Web サイトのイメージ調査

ビジュアル表現 内容	第 1 象限	第 2 象限	第 3 象限	第 4 象限
第 1 象限 知的・動的	9.3% 8.7%	3.6% 5.3%	3.8% 3.8%	5.4% 6.3%
第 2 象限 遊的・動的	1.5% 4.1%	8.1% 6.6%	1.8% 2.6%	1.6% 2.5%
第 3 象限 遊的・静的	3.0% 4.1%	3.6% 4.0%	12.8% 8.8%	7.7% 6.6%
第 4 象限 知的・静的	4.9% 10.6%	4.8% 5.0%	6.5% 7.2%	21.6% 13.0%

上段：2003 年。イメージプロットを見た実験者

下段：2004 年。イメージプロットを見ていない実験者

4 スタンダードデザインテーブル

作成作業は、決定したビジュアル表現のイメージに、どう具体的な形を与えるかを考える過程である。その思考を導くために、スタンダードデザインテーブルを開発した[1]。これは、イメージマップ上のビジュアル表現を表す言葉ごとに、形態、色彩、配置の標準的なパターンを提示するものである。グラフィックデザインの分野で研究された表現手法を元に、モニター上での表現の特性を加え、この言葉で表されるビジュアル表現は、このような形態、色彩、配置をとるのが標準的であるというガイドラインを示している。また、スタンダードデザインテーブルだけでは、具体的な表現がわかりにくいので、標準的なデザイン要素のサンプルを用意した。

自分が決定した言葉から対応する標準的なビジュアル表現を知り、このガイドラインを出発点として

自分のページのためのビジュアル表現を考えていく。標準に準じるか、あるいはそれに変更を加えるか、あえてまったく別の表現手法をとるか、そしてそれはなぜかを考えるのが目的である。

5 授業での活用結果

社会学系学科の「マルチメディア活用」科目(受講生 18 名)において、ワークシートを適用し、Web ページ制作演習を行った。演習後、アンケートを実施し、イメージプロットとスタンダードデザインテーブルがデザイン表現の検討に参考になったかどうかを 10 段階 (1：参考にならない、10：参考になった)で回答してもらった。一方で、課題として作成された Web ページを「デザイン表現に一貫性がある」「デザイン表現に工夫がある」の 2 点から A/B/C の 3 段階で評価した。受講生ごとの評価結果((M,N)と表記)を、参考度回答の散布図上に重ねたのが図 2 である(データ数 15)。参考度合いが高い学生の方が、Web ページのデザイン表現に一貫性や検討の跡が見られる。

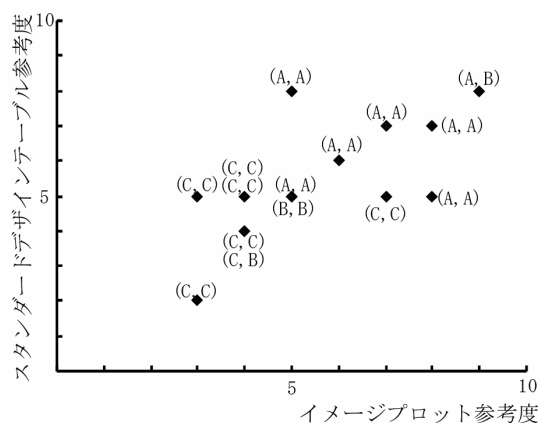


図2 ツールの参考度と作成結果

6 まとめ

イメージプロットならびにスタンダードデザインテーブルは、デザインイメージを具体化する前段階で、思いつきにありがちな方向性の発散とぶれを無くすための手がかりとなり、デザインイメージの一貫性を実現するための起点となる。

非デザイナーが個人的に制作する場合や、芸術・デザインを専門としない教員が担当する大学・高等学校での授業など、デザインの指導者がいない環境においても、これらツールを使うことで、制作者の美的感性に依存していたデザイン表現の検討に、思考を促すプロセスを取り入れることができる。

(本研究は、同志社女子大学研究奨励金の支援を受けた)

【参考文献】

- [1]有賀妙子, 渡部隆志, Web ページ制作授業におけるビジュアル表現の評価, 情報処理学会コンピュータと教育研究会, 2003-CE-72, p33-40, 2003
- [2]小林重順, 景観の色とイメージ, ダヴィッド社, 1994